

(株) 陸送北陸

訪問日：平成 16 年 11 月 5 日

訪問班：物流システム班（松本）

分類別：復旧・復興状況

キーワード別：道路、輸送、交通ネットワーク

調査結果

(1) 震災後の状況

- 地震直後も、予約があったため月曜朝から、高崎、白根等に配送。計 5 台。
- 荷主側のコンピューターのダウンと県内工場の被害のため出荷がストップ。来週から出荷が再開される予定。
- 県内工場と高崎、東京（京浜地区に取引先が多い）へ輸送する。高崎には、上信越道を通っていく。通常よりはるかに時間とコストがかかっている状況（荷いたみや、時間が読みにくいという理由から高速道路を使用）。湯沢方向への輸送は、上越－安塚－六日町－湯沢のルートで行く。国道 253 号を使っていくが儀明峠トンネルあたりが片側通行のため、通常 1～2 時間程度の距離が 3 時間かかる。
- 新潟市方向への運送は影響なし。
- 魚沼米の出荷ができない（余震のため復旧しても、また米袋が崩れる危険があるため）。
- 高速道路の盛り土が弱い。高速を下に、一般道を上にしたらいいのではないか。

(2) 情報システム

- 大型車にはタコチャートを搭載し記録している（行き先、速度、距離記録）。
- GPS を使用して各車連絡をとる。ドコモの携帯ネットワークを利用して、会社のコンピューターで管理できる。
- ローカルネットというグループに入って大手に対抗。県内で組合を作り、お互いを支店に代わりに使えるような提携。また、損害も責任を取り合うシステム。各社、イントラネットにつながっていて、トラックの空車情報などを共有している。